

松濤だより

第十五号

令和3年
7月30日
発行

令和3年度 入舎式 〜コロナに負けず挙行〜



四月四日(日)、午後5時より食堂において岩崎優君以下9名の新入生を迎えて、本年度の入舎式が挙行された。礎理事長から入舎許可書の授与後、「佐賀育英会松濤学舎の存在理由は、皆さん方が成長する場を提供することである。人が成長するとは①自分の欲求のレベルが上がっていくことと

視野を広げ、自分の事だけでなく、自分の生きていく世界がどうあるべきか、さらに今だけではなく、未来についても考える事である。②希望を叶えるためのスキルには、自分の事、世の中を知る事は勿論、人を動かす力を身に付ける事が肝要で、コミュニケーション力を身に付け、人の話を聞く姿勢が大切となる中、寮での生活はアドバンテージがある。自分の為、世の中の為に頑張つてほしい。」と祝辞があった。溝口評議員会議長より、「大学生活は、対面が大切。コミュニケーションが取りにくい世の中になつてきているが、精一杯友達や世間のいろんな人と交流して成長して欲しい。東京は、佐賀とは違つた成長の場であり、知識を深め、視野を広げてほしい。」と言葉をいただいた。

また、大坪舎友会(OB会)会長から「今年、運営する佐賀育英会が創立百周年を迎える記念すべき年で、入舎生の皆さんには記憶に残る年になる。佐賀育英会は鍋島直大侯の下、大隈重信の呼びかけで創設された。当時、国際情勢が厳しい中であつて、一番にやるべき事は教育であるとの理念で設立された。皆さんには、松濤学舎の先輩の思いが込められている事をしっかりと心に刻んで勉強や学生生活に励んでほしい。600人程いるOBは

私たちにとつて大きい財産である。授業、部活、サークル活動の人脈もあると思うが、松濤学舎の人脈が一番心に残ることになると思う。たくさん先輩と知り合つて様々な話をしてほしい。寝食を共にした仲間との関係は長く続いている。」と話された。

新入生を代表して、岩崎君より「昨年頃から続く新型コロナウイルスの影響で大学生活のあり方が不透明な中、松濤学舎の仲間や先輩と共に生活し、毎日の不安や話題を共有できることに有難みを感じている。オンライン授業になると思うが、本来の刺激的な大学生活を望んでいる。これから4年間、大学で勉学に励むことは勿論、この松濤学舎でしか経験できないことを糧にして、心身共に成長した大人になれるよう日々精進していきたい。よろしくお願いします。」と決意を込めてお礼の言葉があつた。



寮長の歓迎の言葉



新入生の謝辞

さらに、小鍋寮長から「寮生活は楽しいことがある反面しなげればならない役割がある。時にはつらいこともある。しかし、それも含めて松濤学舎に居てよかつたと思つてほしい。我々上級生も頼られる先輩になれるよう積極的にサポートしていきたい。」と歓迎の言葉があつた。



その後、コロナ禍で恒例の新入生のパフォーマンスや出身高校の校歌披露が中止となる中、新入生の元気な自己紹介は頼もしく、清々しかった。感染防止のため、光野理事より乾杯

のご発声と松濤学舎OBの吉井様より「30年前に入舎した4月、先輩から感染した麻疹の高熱で、病院に担ぎ込まれ、不安で一杯の中、舎監や友達がいってよかつたなど改めて感じたことを思い出す。東京の生活では今までと違う形でいろんな交友関係が広がると思うが、この寮の仲間が一番良かったと思う。佐賀ゆかりの寮という一体感があり、価値観は違つて、語り合つて、寝食を共に生活して何よりも得難いものがある。楽しく寮生活をエンジョイしてほしい。」と激励の言葉をいただいた。テーブルを囲んでの賑やかな会食が出来ず、閉会後にソーシャルディスタンスを取つて弁当での静かな入舎式となつた。9人の新入生が加わつた学舎生活で、先輩の薫陶や仲間との切磋琢磨の中で、遅く成長してくれるものと期待しています。フレッシュな新入生を含めて今年度の寮生は、34名となりました。



新入生の自己紹介

学舎行事

四月 新入生オリエンテーション
理事長面接（新入舎生9名）
入舎式（4日）

八月 夏季休業（十一～二十日）

十月 創立百周年記念行事

十一月 舎内講演会

十二月 就活のための社会勉強会
～一月 冬季休業（二十七～五日）

二月 退舎式

学生自治会行事

四月 オンライン授業開始
山手線一周（中止）

五月 野川清掃ボランティア（中止）
スポーツ大会（バーベキュー会）

「今後の予定」

九月 寮祭（前期納会・一泊旅行）
後期寮長選挙

十月 スポーツ大会

十二月 忘年会・大掃除

二月 次年度前期寮長選挙

三月 後期納会

自治会 前期役員

〔寮長〕	小鍋 涼也
〔副寮長〕	橋本 涼平
〔議長〕	山口 翔義
〔会計〕	石丸 達也
〔会計監査〕	山口 翔義
〔給食〕	出島 靖識
〔スポーツ〕	板橋 泰寿
〔図書〕	松園 家英
〔美化〕	吉松 宏祐
〔ネット〕	松園 家英
〔広報〕	出島 石丸

「コロナ禍での生活体験記」

本年も新型コロナウイルス感染拡大により3回目（4/25～5/11）に次ぐ4回目（7/12～8/22）の緊急事態宣言で、寮生達は各大学で入学式はあったものの対面授業やサークル活動などが中止、オンライン授業を余儀なくされた。それは、前期終了の7月まで続いているが、一人の感染者も出さずに自由な自粛生活を何とか乗り越えて頑張っている。新入生9人にその体験記を綴ってもらった。（アイウエオ順）

「私の大学生活」

1年 岩崎 優

私の松濤学舎での生活と大学生活の現状について書きたいと思う。まず松濤学舎の生活では、最初は新たな環境の中でたくさんの不安があったが、現在は楽しい寮生活を送ることができている。特に仲間や先輩方とテニスコートで遊んだり、食事に連れていってもらったりして他愛もない会話をすることは大変面白く寮生活でしかない経験だろう。これからは松濤学舎生としての誇りをもって過ごして生きたい。次に大学生活についてだ。確かにコロナ禍ということもあり多少の不自由はあるもの楽しい大学生活を送ることができている。私は、運よくサークル活動や対面授業で大学に通え、友人もでき、一緒に勉強に励んだり、サークル活動や遊びなど

「コロナ禍での大学生活」

1年 川崎 慶太郎

思い描いた通りのキャンパスライフを送っている。特にサークルのたくさんの友人とは、一緒に食事やドライブに行ったりして楽しむことができている。

私は、新型コロナウイルスが猛威を振るい、緊急事態宣言が発令されている中、松濤学舎に来た。東京に来たのは初めてで、地元では見慣れない人ごみや、立ち並ぶ高層ビルなど環境の変化がありながらも今こうして順調に大学生活を楽しめているのは寮にいることが大きいように感じる。寮には同郷出身の先輩・同級生が居り、東京にいなながらもどこか地元の雰囲気を感じる。また、大学に進学し、期待と同時に不安を抱える中で先輩に助言を求めることのできたのは良かった。加えて、寮にはテニスコートが併設されており、テニスを楽しむだけでなく、バスケットリングとサッカーゴールもあって休日や授業が終わった後に気軽に体を動かすことができる。日常生活で運動をしなくなる大学生にとってこの設備はありがたい。

寮生活も4ヶ月が過ぎ、大学生活にも慣れ始めたが、快く東京に送り出してくれた家族に感謝して4年間の大学生活を送っていこうと思う。

「上京して」

1年 古賀 大晴

三月末に地元を離れ寮に入った。まさか中高大で寮生活することになるとは思いもしなかった。世の中ではコロナウイルスに対する警戒が少し緩んでいた時期だった。しかしコロナ禍で学校の授業がオンラインとなり、鬱になる人も多い中、人と関わる事ができるといふ点では寮はかなりありがたかった。先輩方も大変優しくテニスコートで遊んだり、ご飯に連れて行って貰ったりした。寮のご飯もとても美味で食事の時間が楽しみである。勉強するための図書室やトレーニングするためのアスレチック室などがあるので不自由なく暮らすことができている。大学に関しては高校と違って一限がなかったりすぐ帰ってくる。それができたりと自由度が高いように感じる。同じ大学の寮生も居て、安心して生活することができている。少しずつ授業も対面になってきたので友達もつくることができ充実していると思う。だが自分は課題をためる癖があり、後になって大変な思いをしがちなのでそこだけは気を引き締めて行こうと思う。

「松濤学舎での生活」

1年 坂井 昭良

初の寮生活と大学生活に胸を躍らせた東京にやってきた4月。東京ではやや収束に向かいつつあるとのこと

で大学の授業は対面で行われることになり、友人もでき、良きスタートを切ったと思つたのも束の間、ゴールデンウィークが明けると急激な感染増加の一途を辿り、授業はもろろんサークル活動までも制限されることになり先行きの見えない不安に駆られた。しかし、そんな不安を取り除いてくれたのが寮の仲間だった。暇さえあれば皆でフットサルやアスレチック室で共に汗を流し、昼は先輩方にご飯を連れて行ってもらい、夜は部屋で映画を観たりと自粛生活ならではの楽しみを味わうことができた。自粛生活をマインズ面に捉えていたのだが、寮の仲間との絆が深まったのは、この期間があつたおかげであり、プラスに変えるのは結局自分次第なのだと感じた。これからの大学生活、間違いなく大きな失敗やどうにもできない困難にたくさん遭遇すると思う。しかし、その瓦礫で塞がれた行き止まりの道をネガティブに捉えるのではなく、ポジティブに他の道を探し出し少しでも歩みを進める努力をして行くことと思う。交流もできて、なおかつ実家通いの学生や一人暮らしの学生に比べると精神的余裕を持つことができたのではないかと思う。

「新生活から三ヶ月が経って」

1年 中野 友紀崇

三月の末、私は松濤学舎に入り、晴れて大学生になりました。授業の大半

がオンライン授業であるなど、まだまだ、新型コロナウイルスの蔓延による影響は感じられるものの、私の日常生活はかなりアクティブなものに変わった気がします。というのも昨年一年間は、宅浪という準備きこもり生活を送っていたので、寮での集団生活、クラスメイトとの交流、何かと開催されるzoomでのオリエンテーションやサークル活動はどれも新鮮なものでした。なかには、上手く順応出来ないと感じることもありましたが、数ヶ月も経てば、人間誰しも慣れるもので、私もすっかりこの新しい生活に慣れました。寮の上級生は皆さん優しいですし、寮や学校の同級生とも仲良くなれました。サークルで取り組んでいるプロジェクトを進めることは楽しいし、授業は興味深いです。とはいえ、まだまだわからないことが多いのもこの東京での生活です。体調管理には気をつけつつ、この生活を楽しめたらと思っています。

「自粛について感じる点」

1年 中山 雄稀

私は三月末、松濤学舎にやってきた。もちろん、自分のような田舎者に東京のような都会での生活は、慣れないことばかりで戸惑うことも多かった。加えて、新型コロナウイルス蔓延に伴う自粛要請により、外出が制限された。これが不便であることに關しては言うまでもないと思うが、その反面、良

かったこともないわけではない。それは、寮の新たな仲間、先輩方とともに過ごせる時間が増えたことである。自分自身、人見知りかひどくて、松濤学舎に来た当初は、知らない人と顔を合わせるのも嫌で、部屋にこもることが多かったのだが、自粛によって、顔を合わせる機会が半ば強制的に増えたというところもあり、関係を深められたことは紛れもなく、自分にとってありがたいことであつた。さらに、寮では決まった時間にとってもおいしい料理が食べられるうえに、生活に必要なものも大方そろつており、何より困ったときに頼ることができる仲間の存在は大きく、なんの障害もなく学業に励むことができていると思う。これからコロナが収束して、さらに楽しい学生生活が待っていることを願い、このコロナの波をひたすら耐えていきたいと思う。

「自己研鑽の場としての寮」

1年 前山 佑樹

現在この松濤学舎に来てから約三か月が経っているが、私にとってこの三か月の状況は「試練」といっても過言ではないように思う。「東京」という佐賀から遠く離れた異郷の地で、我が身一人で、「新生活」という新たな環境に適応し、身の回りの物すべてにアンテナをめぐらし、そして自らの経験として吸収し応用する。私は中高と寮生活を送ってはいいたものの、それは、

「両親」や「学校」という絶対的な庇護者の下でのことであつたため、このような形の「独立」は私にとっては真新しく、そして何より、不安が常に付きまとうものであつた。

しかし、そんな私にとって、精神的な柱となつているのは、ともに同じ状況で生活する松濤学舎の学舎生の方々である。気軽に話を聞いてくれる気さくな近隣民、食事に誘ってくださり、私の悩みを聴き、そして道を示してくださる先輩。このような方々に囲まれ生活を送っているからこそ、私は、東京での新生活において悩みながらも着実に前進できていると確信している。この先も、松濤の素晴らしい舎生の方々、舎監さん婦人さん、浦口さん木下さんへの感謝を忘れず、この恵まれた環境の利を生かし、一層自己研鑽に邁進したい。トレーニングにも励んでおります。

「寮生活でよかったこと」

1年 松尾 和磨

私の大学は、今年、授業の履修者数に応じて対面・オンライン・オンデマンドと様々な授業形態をとり、学習の質をなるべく落とさないよう工夫されていた。しかし、4月25日に出された緊急事態宣言の影響により5月中はほとんどの授業がオンラインになり、寮で生活する時間が長くなった。このような状況の中、寮生活でよかったと思つたことがある。まずは、

外出の自粛が呼びかけられていたゴールデンウィーク。予定されていた山手線一周は中止になったが、代わりに寮でみんなとバーベキューを行うことになった。普段はあまり話したことがなかった先輩や、同期と楽しくバーベキューをすることができ、いい思い出となった。また、1年生みんなでお風呂に入ることが多く、その際、色々な話を話すことで互いの仲を深めることができた。そして一番嬉しかったことは、1年生みんなが私の誕生日を祝ってくれたことだ。一人暮らしだと祝ってくれる家族や友人もいないが、寮にいと祝ってくれる人がいて、寮で生活していても本当によかったと感じた。コロナ禍の中、今後の大学生活がどうなるかわからず不安ではあるが、1日1日を大事に頑張っていきたい。

「初めての寮生活」

1年 吉井 大翔

佐賀で生まれ育ち、大学生になると同時に初めての寮生活、しかも東京で。新型コロナウイルスが流行しているということもあり、正直不安しかなかった。一年早く松濤学舎に入った友達からいろいろと話を聞いていたものの昔から慣れない環境で体調を崩すことが多く、寮の定入舎してすぐに熱を出して寝込んでしまった。心中ではいきなり迷惑をかけて申し訳ない気持ちと、もしかしたら新型コロナ

ウイルスに感染しているかもしれないという不安が混ざり合って非常に細かい思いだったが、夫人さんや先輩方、そして同級生が優しく助けてくれたおかげで体調は良くなり、無事入舎式を迎えることができた。その後一緒にゲームやテニスをしたり、お風呂で語り合ったり、ご飯に連れていってもらったりと楽しい日々を過ごしている。

東京に来る前は一人暮らしの方が良いかなと思っていたが、今となってはそんなことは全く思わない。美味しいご飯に広い風呂、頼りになる先輩、支え合える同級生、全て無くてはならないもののように感じている。気が付けば入舎からもう三か月、暑い夏を迎えようとしているがこれからこの生活を楽しんでいきたい。

災害用伝言ダイヤルについて

近年、地震や豪雨、竜巻などの自然災害の発生が頻発しています。想定外の災害時の安否確認については、十分な体制が整っていない現状の中、学舎においては、災害時の声の伝言板を利用した安否確認（連絡）を勧められています。学生のみならず、ご家族で利用いただくことにより、少しでも不安の解消に寄与できると考えています。

【災害用伝言ダイヤル（一七二）の基本的操作方法】

保護者会中止のお知らせ

全国的な新型コロナウイルス感染拡大により、昨年度に引き続き今年度も8月の保護者会を中止します。特に、1年生の保護者におかれましては、ご子息の大学生活や学舎生活等大変なところではないかと思えます。前期（6月中心）に全寮生の面談を済ませましたが、特に大きな問題もなく食事もおいしいと好評でした。ところで、保護者会長、会計の方と協議をした結果、保護者会費二千円を各自振り込んでいただくことになりました。左記への振り込みをお願い申し上げます。以上、よろしく申し上げます。

操作手順	伝言の録音	伝言の再生
① 172をダイヤル	① 伝言ダイヤルにダイヤルすると、録音開始音が鳴ります。録音開始音終了後、録音したい内容を話します。	① 録音終了音（ブザー音）が鳴ると録音完了です。録音した内容は、録音終了音終了後、自動的に再生されます。
② 録音または再生をキャンセル	② 録音中に「1」を押すと録音はキャンセルされます。	② 再生中に「1」を押すと再生はキャンセルされます。
③ 録音または再生の終了	③ 録音中に「2」を押すと録音は終了します。	③ 再生中に「2」を押すと再生は終了します。
④ 録音または再生の再開	④ 録音中に「3」を押すと録音は再開されます。	④ 再生中に「3」を押すと再生は再開されます。
⑤ 録音または再生の終了	⑤ 録音中に「4」を押すと録音は終了します。	⑤ 再生中に「4」を押すと再生は終了します。
⑥ 録音または再生の再開	⑥ 録音中に「5」を押すと録音は再開されます。	⑥ 再生中に「5」を押すと再生は再開されます。
⑦ 録音または再生の終了	⑦ 録音中に「6」を押すと録音は終了します。	⑦ 再生中に「6」を押すと再生は終了します。
⑧ 録音または再生の再開	⑧ 録音中に「7」を押すと録音は再開されます。	⑧ 再生中に「7」を押すと再生は再開されます。
⑨ 録音または再生の終了	⑨ 録音中に「8」を押すと録音は終了します。	⑨ 再生中に「8」を押すと再生は終了します。
⑩ 録音または再生の再開	⑩ 録音中に「9」を押すと録音は再開されます。	⑩ 再生中に「9」を押すと再生は再開されます。
⑪ 録音または再生の終了	⑪ 録音中に「0」を押すと録音は終了します。	⑪ 再生中に「0」を押すと再生は終了します。
⑫ 録音または再生の再開	⑫ 録音中に「*」を押すと録音は再開されます。	⑫ 再生中に「*」を押すと再生は再開されます。
⑬ 録音または再生の終了	⑬ 録音中に「#」を押すと録音は終了します。	⑬ 再生中に「#」を押すと再生は終了します。

別添同封の災害用伝言ダイヤル操作方法をご利用ください！

ゆうちょ銀行
 名義：ショウトウカクシヤ
 記号：17450
 番号：17415201

保護者会会長
 橋本 貴光
 保護者会計
 小鍋 敦志

編集後記

コロナ禍の収束が見通せない中で、4月当初に入舎式は実施できたものの、4月末の3回目の緊急事態宣言で、大学の授業もオンライン中心になりました。仕方がないとはいえ、自由に青春を謳歌出来ない異常な状況です。また、現在は、4回目となる緊急事態宣言の中で日本代表の活躍を期待しています。他県の寮ではクラスターが発生するという事案も増え、戦々恐々の日々です。昨年と同様に感染拡大の状況に応じて、随時午前八時に館内放送による注意喚起をしているところですが、今一つ学生達に浸透していない状況です。今のところ感染者は出ていませんが、不安な毎日です。そんな中で、6月中旬には寮生から、「母の日・父の日」のプレゼントにコーヒート花束をいただきました。学生諸君の優しい心遣いに感謝しているところです。これから、暑い日が続きます。健康にはくれぐれも留意下さい。

◎ 次回発行は、2月の予定です。

松濤学舎舎監 岩橋



プレゼントをいただき寮生と記念写真